

柑橘11月の管理

10月7日に行われた賀茂柑橘研究会の調査によると、肥大は平年並みの傾向で推移しています。収穫前まで樹上選果を徹底し秀品率の向上に努め、家庭選果作業の短縮につなげましょう。近年、木成り甘夏はフケ果が多発する傾向にあり、収量の減少、秀品率の低下が著しくなっています。冷風入庫してロスを減らしましょう。なお、冷風甘夏はM玉以上を受け取りします。

今月はお飾り橙の目揃会を開催します。目揃会に出席して有利販売に努めましょう。なお、目揃会に出席しない生産者は出荷できないことになっていますので必ず出席してください。

表1 収穫時の階級予測

(令和2年10月7日賀茂営農技術員会調査) ※()内は昨年の数値 単位:%

	4L	3L	2L	L	M	S	2S
甘夏		0(0)	2.7(4.8)	10.3(23.6)	35.0(43.8)	41.9(24.9)	10.0(2.9)
ポンカン		3.6(3.4)	34.8(33.2)	36.5(41.5)	18.5(19.9)	6.7(2.1)	0.0
青島	9.8(2.8)	21.9(11.2)	31.2(28)	22.1(30)	22.1(23.5)	12.7(4.5)	2.3(0)

柑橘生態

表2 果実肥大(令和2年9月28日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	ヒュウガナツ			川野ナツダイダイ			太田ポンカン		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
R2	55.5	48.6	114	81.3	66	123	52.3	46.1	114
平年	60.1	53.2	113	80.2	65.6	122	53.2	44.7	119
R1	56.9	51.5	110	77.5	64.7	120	49.4	41.9	118
H30	54.4	48	113	83.7	69.2	121	55.3	50	111

年度	不知火			はるみ			青島温州		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
R2	69.4	63.9	109	60.2	52.4	115	62.5	47.3	132
平年	70.3	65.7	107	65.8	54.3	121	64.1	48.2	133
R1	63.7	58.8	108	59	50.9	116	60	48.2	124
H30	69.9	67.6	103	72.5	64	113	61.9	48.4	128

表3 果実品質(令和2年9月30日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	青島温州		太田ポンカン		川野ナツ ダイダイ		ヒュウガ ナツ		不知火		はるみ	
	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %	糖度 Brix	酸 %
R2	8.6	1.73	8.7	3.7	8.4	3.24	8.2	2.96	8.5	2.4	8.5	3.13
平年	7.8	2.45	8.6	4.73	8.1	3.81	8.2	4.24	8.3	3.33	8.5	3.35
R1	8.4	1.95	9.3	4.76	8.7	3.66	8.2	3.3	9.1	3.56	8.7	3.2
H30	7.8	1.83	8.2	4.04	7.8	3.28	7.6	3.04	8.1	2.68	8.3	3.2

☆品質向上対策

浮き皮軽減対策

昨年は、浮皮や体質の弱い果実が多発しました。果皮強化のため普通・青島では11月中旬にセルバイン300倍を散布してください。

袋かけ

ニューサマー等の中晩柑類では品質向上、寒害・鳥害防止の為、袋かけを実施してください。なお、袋かけの前には必ずミカンハダニの防除を行いましょう。

樹上選果

樹上選果を行うことで品質の均一化や収穫選果労力の軽減に繋がります。内裾成り、小玉果、極大玉果、病虫害果、風ズレ果等の除去を収穫直前まで行いましょう。

☆病虫害防除

ハダニの被害は果実品質を大きく低下させます。特に袋かけをする品種は袋かけ前に必ずハダニの防除を行うようにしましょう。収穫が近い品種では防除基準の収穫前日数に注意してください。基準に違反したものは受取りできません。またベンレート水和剤の安全使用基準が、かんきつ(みかんを除く)で収穫前日日まで2回使用可能に変更になりましたので注意して下さい。

表4 薬剤防除

時期	品種	対象病虫害	薬剤名	倍率	安全使用基準
11月中旬 ～下旬	温州・ポンカン等	貯蔵病害	ベフラン液剤	2,000	温州収穫前日3回使用可 ポンカン収穫前日2回使用可
			ベンレート水和剤	4,000	温州収穫前日4回使用可 ポンカン収穫前日2回使用可
袋掛け前	柑橘全般	ミカンハダニ	ダニコングフロアブル	4,000	収穫前日 1回使用可

耕種的防除

クワゴマダラヒトリ

アカメガシワ、カラスノザンショウ、ニセアカシア、クワの樹に見られる白い綿状の塊は越冬前の幼虫のコロニーです。多発時は寄生枝を切除して焼却してください。

かいよう病

今年度はかいよう病が多発しています。病斑が見られる枝は必ず切除してください。

☆施肥

樹勢の回復、耐寒性の増強、翌年の開花結実促進のため秋肥を施用します。秋肥は早すぎたり、施肥量が多すぎたりすると着色の遅れに繋がります。逆に施肥時期が遅れると、気温の低下により吸収効率が低下します。適期に基準量を施用するようにしてください。

表5 施肥基準

時期	品種	肥料名	反当量
11月上旬	早生温州	燐硝安加里S677	2
	ネーブル	FTE燐硝安加里S280	3
11月中旬	青島・普通温州	燐硝安加里S677	3
	ポンカン・伊予柑	FTE燐硝安加里S280	3

☆収穫・予措

収穫の際は、丁寧に2度切りを行い、高い所から落としたりして果実を傷つけないように注意してください。予措は、果実をコンテナに7分程度入れ、風通しのよい日陰に2～3日置いてください。

☆夏秋梢の処理

秋梢は気温の低下する10月下旬頃には切り戻しても発生しにくくなります。必要に応じて夏秋梢の除去を行ってください。

- ・強い夏秋梢(直立の枝)
樹形の乱れを防ぐ為、春芽の基部より除去する間引き剪定を実施します。
来年裏年が予想される場合はかいよう病の出ている枝のみ切除してください。
- ・弱い夏秋梢(角度30度以下)
輪芽を残す切り返し剪定を実施します。
- ・幼木の夏秋梢
樹冠拡大、早期結実の為、充実した夏秋梢を残します。
- ・不知火・はるみの夏秋梢
充実した夏秋梢は来年の結果母枝になるので残します。混み合った短い枝やかいよう病の病斑が見られる枝は間引いてください。

※農業安全使用基準を厳守し、出荷前に必ず防除履歴を提出しましょう！！

JA伊豆太陽東部営農センター 0557-95-3614